

## 事業活動報告 NO. 1

## 第4回産学連携人材ニーズ交流会 開催報告

本協会では、社会の信頼に応えられる情報系分野の人材育成を支援するため、大学、産業界の双方が産学連携人材ニーズ交流会を通じて人材教育の役割・目標などの理解・認識を深めるとともに、産学連携による教育課程および教育実践の探求、教員のインターンシップ、学生の社会スタディの支援について、実現可能な連携の仕組みづくりに取り組んでいる。

平成24年度の産学連携人材ニーズ交流会は、平成25年3月13日（水）に新宿住友ホールで開催した。過去3回の交流会を通じて、情報系分野の人材育成に対する大学と産業界の意識合わせが緒についたことから、情報系分野の教育改善モデルに掲げたイノベーションに関与できる人材の育成を目指して、オープンな教育の仕組みを産学連携の中で考える場とした。そこで、グローバルな視点で課題発見・解決に取り組む能力を育成するオープンイノベーションの重要性について理解を共有するため基調講演を行い、その上で新しい価値創造に関与できる分野横断型のPBL学修モデルの実現性・可能性について意見交流することで、新しい産学連携による教育の仕組みを探求することにした。また、ICTが新しい成長分野の創造やイノベーションに不可欠なことを学生に気づかせる機会を提供できるようにするため、産学連携による「社会スタディの場」の実現策について協議することにした。他方、教員の教育力向上を支援するため、大学教員の企業現場研修の充実と拡大に向け理解の共有に努めることの意義・必要性について検討することにした。

以下に概要を報告する。

### 1. 基調講演「オープンイノベーションを創り出す人材育成を考える」

科学技術振興機構顧問の相澤益男氏から事例を踏まえて、国際レベルでの科学イノベーションが基礎技術の分野およびあらゆる分野の産業に波及することの重要性が紹介され、我が国の成長力の基盤となることが指摘された。その上で、イノベー

ションを育成する環境づくりが必要で、国からの財政支援や大学と社会との連携および人材の育成が急がれるとした。特に人材育成では常識に囚われることなく、「破壊的創造」の中で価値を創出するイノベーションが求められていることが指摘された。その上で、イノベーションの人材育成に求められる要素として、「なぜと疑問を持つ力」、「観察して、新しい視点を提案する力」、「新しいことに挑戦して行動する力」、「ICTを活用して様々な領域から多様な考えを組み合わせる力」が必要であることが強調された。

### 2. オープンイノベーションで実現する教育改善モデルの意見交流

過去2回の交流会を踏まえて検討した情報系分野（「情報通信系」、「情報コンテンツ・サービス系」）の学士力の考察、教育改善モデルなどについて報告し、イノベーションのための人材育成の意見交流を行った。情報系教育の改善モデルについては、学士力とその実現に向けた教育改善の仕組みを報告した。

特に、「情報通信系教育」では、人々の生活を豊かにする新しい情報通信システムをグローバルな規模で考え、イノベーションに関与できることを目指したこと、「情報コンテンツ・サービス系教育」では、人文・社会科学、自然科学の観点に立って人々の生活や社会に新たな価値や変化をもたらすことのできる人材の育成を目指したことが報告された。

その上で、教育改善モデルとして専門分野の教育だけでなく、他分野の教員・学生や社会人などとの連携を通じて、多面的な視点から社会に有益な提案ができる教育の仕組みについて提案し、意見交流を行った。

意見交流後にクリッカーで確認したところ、情報通信系教育では「積極的に賛同する」が30%、「概ね賛同する」が67%、「賛同できない」が3%であった。また、情報コンテンツ・サービス系教育では「積極的に賛同する」が30%、「概ね賛同

する」が60%、「賛同できない」が10%であり、参加者の90%以上の賛同が得られた。

### 3. 大学教員の企業現場研修（教員インターンシップ）の今後の進め方について

前年度の交流会において、産学連携の事業として大学と企業のニーズが高い「教員のインターンシップ」を優先して実施することになり、教員の教育力向上を目指した取り組みを以下の通り実施した旨の報告が行われた。

まず、9月に最新の技術動向の現場研修として、トーテックアメニティ株式会社の協力を得て「コンピュータセキュリティ基礎研修」、「組込システム開発基礎研修」を実施、9大学10名が参加。「役に立った」、「授業テーマに活かせる」、「他の教員にも紹介したい」、「有意義で役に立つ」との感想が寄せられ、非常に高い評価が得られた。

次に3月に富士通株式会社の協力を得て「先端的なICT活用事例の研修」に20名、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社の協力を得て「システムインテグレートの実態を知る研修」に11名、合わせて25大学33名の教員が参加。「大学では体験できない経験が授業に役立つ」、「企業で必要なスキルが理解できた」、「企業が必要とする人材および社内教育の仕組みが学べて良かった」、「最先端の現場情報を知り、授業で紹介することができるので大変勉強になった」、「若手社員との本音の意見交換ができて学ぶことがあった」、「人材育成に産学連携が重要と感じた」、「SIという業界が分かりにくかったが業務内容、人材像が理解できた」など高い評価が得られた。なお、新入社員からの教育への要望として、一方向型の授業

にかなり不満があることが確認された。

意見交流では、参加者から高い評価が得られ、今後継続・拡大してほしいとの要望が多く寄せられ、25年度はさらに拡大に取り組むことが確認された。

### 4. 学生を対象とした連携事業構想案の意見交流

日本の未来を切り拓く志のある若者が希望と夢を自ら描けるきっかけをもたらすことができるよう、社会の有識者からの情報提供と学生との対話による「社会スタディの場」を設けることにしている。情報通信技術がイノベーションの原動力となることの重要性、情報通信技術を活用している産業界の将来像、社会的な役割、今後の課題などの業界情報を分かりやすく説明し、意見交流する中で、国・社会の発展に情報通信技術の果たす役割の重要性に学びの早い段階から気づきをもたらす、興味・関心を抱かせて学びに目的意識を持って取り組めるよう意欲を喚起することを目指している。平成26年2月開催に向けて事業実施のイメージを報告し、意見を求めたところ、ほとんどの参加者から積極的な賛同が得られ、有識者の選定や対話の方法等の具体的な準備を進めることにした（実施イメージは次ページ参照）。

### 5. 情報交流会

約70名の参加を得て情報交流会を実施し、参加者から「大学教育への提言」を学内で周知して多くの教員に活用させるようにしたいとの意見や、教員インターンシップの取り組み拡大に期待する等の意見が多数寄せられ、本事業の継続・拡大に向けた期待が確認できた。

連携企業		伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	
実施日	実施テーマと概要	研修内容	研修風景
H25年 3/14	【社会システムを支えるシステムインテグレータの事例と現場情報の研修】 「システムインテグレータのプロジェクト事例紹介・社員教育の実態等の紹介」	・システムインテグレータのプロジェクト事例紹介と求められる人材像 ・システムインテグレータが支える社会システムの事例 ・社員教育プログラムの内容 ・大学教育はSIの現場で役立っているのか（若手、中堅、責任者による発表） ・社会人基礎力育成に関する意見交換	
参加人員	参加者のご感想		
11名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SI企業が求める人材像についてよく理解できた。</li> <li>・講義形式から議論・発表形式の授業に変えていきたい。</li> <li>・コミュニケーション能力、協調性を高めるよう今後指導していきたい。</li> <li>・失敗事例を通じて人は育つなど、失敗事例の紹介は大変参考になった。</li> <li>・企業現場の生の声を直接聞く機会ができてとても参考になった。</li> </ul>		

大学教員の企業現場研修（教員インターンシップ）の一例

## 産学連携事業「社会スタディの場」のイメージ

### (1) 目的

地球規模で抱える課題を克服する先進国として、日本は新たな成長分野を創出し、世界の国々との連携・協調していくことが求められている。そのような中で、未来を切り拓く志のある若者が希望と夢を自ら描けるきっかけをもたらすことができるよう、情報通信技術を活用している産業界の将来像、社会的な役割、今後の課題などの業界情報を分かりやすく説明し、意見交流する中で、国・社会の発展に情報通信技術の果たす役割の重要性に気づきをもたらし、早い段階から興味・関心を抱かせて学びに目的意識を持って取り組めるよう意欲を喚起する。

### (2) 対象

大学生を対象に志のある若者を小論文等で選定する。

### (3) 日時、場所

日 時：平成26年2月を予定

場 所：新宿住友ホール（東京都新宿区西新宿2-6-1）

参加者：大学生150名程度とする。

### (4) プログラムの内容

世界の動き、産業界の将来像、社会的役割、今後の課題などについて以下の仮題で有識者から学生目線でお話しいただき、参加者と意見交流する。内容については今後予定者との打ち合せの中で決定する。

#### 1) 新たな価値創造のためのインフラとしての情報通信技術の重要性（仮題）

オープンイノベーションで多様な視点から新しい価値の創出を行っていくことの重要性とこれからの社会・企業で求められる人材について説明いただく。

#### 2) LINEを通じて新しいサービスの創造に取り組んでいる実践例（仮題）

230以上の国で1億人が利用しているLINEを通じて世界中の人達の英知を集め、今までにない新しいサービスの創造を目指している取り組みと夢を与える説明をいただく。

#### 3) イノベーションに求められる学び（仮題）

付加価値が高い高度な「ITサービス」の実現が、日本経済の活力につながることで、世界で通用する人材となるためには、理系のセンス（分析力）文系センス（企画・立案力）さらには教養やコミュニケーション能力が求められていることを説明いただく。

#### 4) 若者はグローバル時代にどう対処すべきか（仮題）

ICTによって従来の権威や組織にかわり「個が輝く時代」が訪れていることと、「オープン・エデュケーション」が既成の教育の概念を変えつつあることなど、若者がグローバル時代にどう対処すべきかの気づきと希望を与える説明をいただく。

### (5) プログラムの進め方

各有識者からテーマごとに30分程度で説明いただき、その内容について学生の意見や質問をクリッカーで掲示し、理解度に応じた対話を行う。なお、参加できない学生に情報を提供できるよう個人情報に配慮して収録、インターネットで公表する。